

岐路に立つヨーロッパ

— EUのガバナンス —

期日: 2012年9月28日(金)～30日(日)

場所: 八王子セミナーハウス(東京都八王子市下柚木1987-1)

特別講演

駐日欧州連合公使・副代表 マエヴ・コリンズ氏

— 昨年以來のユーロ危機はEU統合に内包された構造的不均衡を改めて問題視する機会となった。我が国においては統合について悲観的な論調が一気に強まったように見える。しかし統合の試行錯誤はこれまでの統合の歴史で繰り返されてきたところである。困難に際して、加盟国の間で常に統合を前進させようという、いわば「政治的意思」が存在するからこそ困難の克服は可能となったのである。「グローバリゼーション」の時代においては世界が同じ問題を共有し、克服していくプロセスが様々な形で拡大していく。それぞれの地域によってそのあり方は違っていても大きな流れとし、同じ地域の諸国の間での協力は不可欠である。

本セミナーは以上のような関心から、特に若い人々が日本の内外情勢を考えていく上での思考の一里塚として、EU統合をより広く理解していくことを意図して、今年から始まるプログラムである。第一回目にあたる今年のセミナーは、「EUガバナンス」をテーマに経済・通貨、政治統合、EU法、環境問題、EUの対外関係などの個別のセッションを設けて、個別の議論を行うと同時に、全体会議でEUのガバナンスとは何かを考えてみる。駐日欧州連合大使にもご講演いただく。学生諸君の多数の参加を望んでいる。(EUセミナー企画委員長 渡邊啓貴)

◆第1分科会

中央大学教授

田中 素香

◆第2分科会

立正大学教授

蓮見 雄

一橋大学教授

中西優美子

◆第3分科会

青山学院大学教授

押村 高

◆第4分科会

東京外国語大学教授

渡邊 啓貴

◆第5分科会

早稲田大学教授

福田 耕治

◆第6分科会

東洋英和女学院大学教授

小久保康之

タイムテーブル

9月28日(金)

17:30 ~ 受付
18:00 ~ 19:00 夕食
19:15 ~ 20:30 セッション1
20:40 ~ 22:50 分科会討論1

9月29日(土)

8:00 ~ 朝食
9:30 ~ 12:00 分科会討論2
12:00 ~ 13:00 昼食
13:00 ~ 14:30 セッション2
14:30 ~ 16:00 特別講演
16:30 ~ 18:00 分科会討論3
18:00 ~ 19:00 夕食
19:30 ~ 分科会討論4

9月30日(日)

8:00 ~ 朝食
9:30 ~ 12:00 分科会討論5
12:00 ~ 13:00 昼食
13:00 ~ 14:30 セッション3
15:00 閉会

分科会

第1分科会 ユーロ危機と通貨統合

中央大学経済学部教授 **田中素香**

EU通貨統合によって史上初めて単一の共通通貨が流通することとなった。それから10年余り、ユーロは2010年から翌年にかけて危機に陥った。米英を震源地とする世界金融危機に対して、ユーロ圏諸国の対応力の格差が劇的な形で明らかとなった。ギリシャなど新興諸国と西欧・北欧の先進諸国との危機対応力の格差が、南欧諸国の財政危機・政府債務危機（ソブリン危機）の形で顕在化し、ソブリン危機は金融・銀行危機に発展して、ユーロ圏のみでなく世界経済にも悪影響を及ぼした。第1分科会では、このユーロ危機について、広い視野から総合的に分析し、EU・ユーロの対応の発展、将来展望について考える。全体として、EU経済統合の最前線にある通貨統合の試練を通じて、21世紀前半にEU統合がどのような発展を遂げるのかを、一緒に考えたい。

第2分科会 エネルギーと環境

立正大学経済学部教授 **蓮見 雄**

一橋大学大学院法学研究科教授 **中西優美子**

EUは、エネルギーの確保と持続可能な経済発展の同時達成という課題に挑戦している。この分科会では、EUのエネルギー・環境問題を経済的及び法的観点から取り扱う。排出枠取引制度など、エネルギー・環境問題に経済的手法を取り入れた法的措置も見られるようになってきている。エネルギーと環境の問題を同時に、しかも経済と法という両方の観点から問題を眺めることで、より具体的な対策を立てることが可能になる。エネルギーについては、石油・天然ガスなど化石燃料の確保と利用効率の改善、再生可能エネルギーの導入とその前提となるエネルギーネットワークの整備、原子力エネルギーの安全性、共通エネルギー政策の可能性などが議論されることになる。環境については、地球温暖化政策への取り組みが議論の対象となる。

第3分科会 EUのアイデンティティ

青山学院大学国際政治経済学部教授 **押村 高**

EUの建設は、制度や機構の面では軌道に乗ってきましたが、一方で各種意識調査を見る限り、ヨーロッパ人がEUに対して抱くイメージは余り改善されていません。民主的コントロールが不十分であることへの不信、決定権限が各国の民主的政府からEU機構へシフトしてしまうことへの不満にも、根強いものがあります。本セッションでは、ヨーロッパが企業、資本、官僚による「エリートのEU」から「民衆のEU」に変るためには何が必要なのかの分析から始め、地域ガバナンスの安定には構成国を横断する集団アイデンティティの醸成が重要であることを再確認し、さらにEUがこれまで取り組んできた教育、文化、メディアの分野における政策を評価して、「意識のヨーロッパ化」における課題とは何かについて検討します。

第4分科会 グローバルプレイヤーとしてのEU

東京外国語大学大学院総合国際学研究院教授 **渡邊啓貴**

ギリシアをはじめとする南・西欧諸国の財政危機をめぐってユーロの行く末が懸念されている。ドル・円と並ぶユーロ通貨圏の危機がグローバルな影響をもつことは明らかである。

本分科会では、EUの存在をグローバルにとらえつつ、経済圏としてだけではなく、政治・外交・安全保障面も含めてその対外関係について考えていきたい。同時に、そのことはEUそのものがハードパワーとしてだけでなく、価値規範を共有し、伝達することを通して影響力を持つ存在であることを意味している。こうした観点から、EUの国際社会（国際機関・アメリカ・アジア）との関係について考えていくことが本分科会の目的である。

第5分科会 EU統合のガバナンスと政策過程

早稲田大学政治経済学術院教授 **福田耕治**

EU機構と政策過程に焦点を当て、欧州ガバナンスの機能と構造を取りあげる。欧州の民主的ガバナンスの仕組みと正統性の問題、EUの金融・通貨、環境・エネルギー、社会・労働、文化、対外政策等の意思決定について討論を通じて理解を深めたい。EU諸機関の機構をめぐる諸問題および加盟国の統治機構との間の権限関係、各公共政策過程と欧州市民との関係を考える。EU諸政策における多様なガバナンス方式の比較を通じて、リスボン条約の意義と問題点を理論的かつ実証的に検討を行い、欧州統合の全体像を俯瞰し、EUを体系的に捉えられるようにしたい。

第6分科会 拡大EUの対外戦略

東洋英和女学院大学国際社会学部教授 **小久保康之**

2004年および2007年の拡大によりEU加盟国は27カ国となった。今後も西バルカン諸国が順次加盟してゆく予定であるが、同時にトルコの加盟問題という大きな課題をEUは背負っている。さらに、拡大EUの近隣地域を政治的・経済的に安定させることが拡大EUにとっての急務となっている。それ故、更なる「拡大」および近隣政策（ENP）は、拡大EUにとって極めて重要な対外戦略と言えよう。本分科会では、そうした拡大EUの対外戦略についての理解を深めることに重点をおきつつ、ロシア、中国、日本、アジアといった他の地域・諸国との関係にも気配りをしながら、拡大EUの対外戦略全般について参加者と討論してゆく。

【募集要項】 募集人員：80名

参加資格：大学生・大学院生及び社会人

参加費：大学生・大学院生は12,000円（会員校は6,000円）、社会人は15,000円
宿泊・食事代、資料代、税を含みます。

申込方法：ホームページ掲載の申込フォームにてお申込み下さい。折り返し受付メールを返信しますが、1週間以内に連絡がない場合には、お手数ですが、下記までご連絡下さい。

申込締切日：9月18日（火）定員に満たない場合は、引き続き、受付可です。

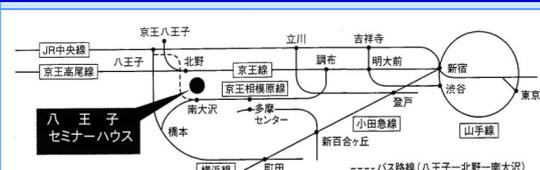
問合せ先：公益財団法人大学セミナーハウス セミナー・留学生グループ

〒192-0372 東京都八王子市下柚木1987-1

TEL: 042-676-8532(直通) FAX: 042-676-1220

E-mail: seminar-g@seminarhouse.or.jp

◆詳細はホームページ(<http://www.seminarhouse.or.jp/>)をご覧ください。



大学セミナーハウス本館は、大地にくさびを打ち込んだような、四角すいを逆にした形をしています。
(建築家・吉阪隆正の代表作)
また、壁には大きな「目」がひとつついています。(写真左上) こちらに来て発見してみませんか。